

月見光路プロジェクト

あかりのオブジェで
金沢の街を幻想的に彩る



しいのき迎賓館のオブジェ

学科プロジェクト

月見光路は、あかりで街中を幻想的に演出するライトアップイベント。金沢市中心市街地を元気づけようと、建築学科の学生が地域と連携し行っている。2004年にスタートしたイベントは、今では金沢の秋の風物詩となった。建築学科の川崎研究室、西村研究室、土田研究室の3つの研究室が合同で進めるプロジェクトだ。

花をモチーフとした 立体格子のオブジェ

川崎研究室が担当したのは、金沢21世紀美術館としいのき迎賓館に設置するオブジェ制作。モチーフに花を使うことは決まっているが、実際に何をつくるのかは学生の創造性に任されている。

「4月にメンバーが自分のアイデアを発表し、みんなでディスカッションして絞り込んでいきま

した。私たちのグループが担当したのは、しいのき迎賓館のオブジェ。最終的にまとまったプランは、木を使った立体格子でした」と、池端麻美はプランが決まるまでの経緯を語る。

女性がオブジェ設計と飾り付け、男性が施工を担当する役割分担も決まった。池端は3D CADで行う設計の責任者となり「花のトンネル」をコンセプトとしたプランづくりに取り組んだ。

みんなで一つのものをつくる 大変さと楽しさ

「設計が固まるまでの2カ月が、いちばん大変だった」とプロジェクトを振り返る池端。プランはなかなか決まらず、最終的に8案つくった結果、最初に出したプランに落ち着いた。

プランが確定したのは、8月半ば過ぎのこと。トンネル型の構造で中を人が通るから、強度計算も欠かせない。構造設計の部分は大学院生の先輩たちがサポートしてくれ、9月から制作が開始された。

「4月から10月まで、半年がかりのプロジェクトをまとめるのは大変でした。メンバーが就職活動で忙しい時期もあり、話をするにもなかなかみんなが揃わないのです。それ

でも何とか予定通りに進められたのは、プロジェクトデザインでスケジューリングを学んでいたからでしょう。ともあれオブジェが実際に、しいのき迎賓館に設置されたときには、びっくりしました。自分が頭の中で考えていたモノが、いきなり金沢の街の中に現れたみたいな感じでした」

プロジェクトには建築学科の1～3年生も手伝いに来てくれた。月見光路プロジェクトに参加したいから、と川崎研究室を志望する学生もいる。ライトアップされたオブジェは、独特な雰囲気を醸し出した。

「毎年見に来てくれている方が、今年はイメージが変わって面白いと言ってくださったのが印象に残りました」



池端麻美

【建築デザイン学科 ※現在の建築学科】
▷4年 石川・県立工業高等学校出身
株式会社ワークホームズ 就職
(2020年3月卒業)



金沢21世紀美術館のオブジェ